

# 地球温暖化センサーとしての中部山岳地域における環境変動の解明

2009/1/30(金)13:30~17:40  
1/31(土) 9:00~12:45  
信州大学理学部C棟2階大会議室

## プログラム

### 1月30日(金)

- 13:30-13:40 開会の挨拶 信州大学理事・副学長 藤沢 謙一郎
- 13:40-13:55 田中 正(筑波大学陸域環境研究センター): 国策および地球温暖化研究における事業の位置付けと中核拠点形成構想
- 13:55-14:10 山中 勤(筑波大学陸域環境研究センター): IPCC 第2作業部会報告に沿った研究戦略と問題提起
- 14:10-14:25 公文富士夫・河合小百合(信州大学山岳科学総合研究所): 野尻湖堆積物から復元した中部日本の過去7万年間の気候変動
- 14:25-14:40 河合小百合・原山 智(信州大学山岳科学総合研究所):  
過去2万6千年間の山岳環境の変遷-上高地大正池ボーリングのめざす目標-
- 14:40-14:55 休憩
- 14:55-15:10 上野健一・木村富士男(筑波大学生命環境科学研究科): 中部山岳の気候変動に関する監視と予測-大気科学の視点から-
- 15:10-15:25 浅沼 順(筑波大学陸域環境研究センター): 20世紀後半における中部日本の長期水循環トレンドの再現
- 15:25-15:40 田中基樹・鈴木啓助(信州大学山岳科学総合研究所): 中央アルプス駒ヶ岳における積雪水量の時間的空間的分布
- 15:40-15:55 濱田洋平(筑波大学陸域環境研究センター): 筑波大学川上演習林における土壌凍結と積雪深の関係
- 15:55-16:10 今泉文寿(筑波大学農林技術センター井川演習林): 山岳域における森林管理が流域の土砂移動に及ぼす影響
- 16:10-16:25 休憩
- 16:25-16:40 戸田任重(信州大学山岳科学総合研究所): 中部山岳地域における渓流水の硝酸態窒素濃度の地域差について
- 16:40-16:55 小林 元(信州大学アルプス圏フィールド科学教育研究センター): 信州大学西駒ステーションの研究利用とフィールドの特性
- 16:55-17:10 坂井直樹・南川和則・黒川瑠美子・林 久喜(筑波大学生命環境科学研究科・(独)農業環境技術研究所):  
地球温暖化と農業活動-水田由来のメタン発生に焦点を当てた最近の研究動向-
- 17:10-17:25 中村寛志・江田慧子・中山陽介(信州大学山岳科学総合研究所・アルプス圏フィールド科学教育研究センター):  
中部山岳域の昆虫群集を指標生物とした地球温暖化評価手法の開発-西駒演習林のシデムシ類の垂直分布を例に-
- 17:25-17:40 加藤正人(信州大学アルプス圏フィールド科学教育研究センター): 次世代リモートセンシング技術による山岳生態系のモニタリング
- 18:00- 懇親会(旭会館2階 ライジング・サン)

### 1月31日(土)

- 9:00-9:15 尾鼻陽介・佐藤利幸・片岡陽介・島野光司(信州大学大学院・山岳科学総合研究所): 信州(中部山岳)におけるGLORIAプロジェクトへの参加計画
- 9:15-9:30 横井 カ・藤井伸二・尾鼻陽介(信州大学大学院・山岳科学総合研究所): 長野県山岳地域におけるスゲ属植物のホットスポット
- 9:30-9:45 佐藤利幸・松浦亮介・田中崇行・江藤陽子(信州大学山岳科学総合研究所・大学院): 信州から中部へのシダ植物分布スケーリング解析
- 9:45-10:00 平尾 章(信州大学山岳科学総合研究所): 中部山岳地域における高山植物のエコタイプ分化
- 10:00-10:15 高橋耕一(信州大学山岳科学総合研究所): 温暖化が標高傾度に応じた森林の更新に及ぼす影響の予測
- 10:15-10:30 渡辺隆一(信州大学教育学部): 志賀高原における温暖化の植物季節への影響: 定点写真(1986年~)から
- 10:30-10:45 休憩
- 10:45-11:00 門脇正史・杉山昌典(筑波大学農林技術センター八ヶ岳演習林): 筑波大学八ヶ岳演習林におけるヤマネの生息状況と今後の展開
- 11:00-11:15 中村浩志(信州大学山岳科学総合研究所): 日本のライチョウの現状と温暖化による影響予測
- 11:15-11:45 田中健太(筑波大学菅平高原実験センター): 標高傾度の中での生物多様性、炭素循環、水循環研究
- 11:45-12:45 総合討論